

中部様式

令和7年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価  
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

伊豆の国市地域公共交通会議  
(伊豆の国市)

平成23年5月 伊豆の国市地域公共交通会議 設置

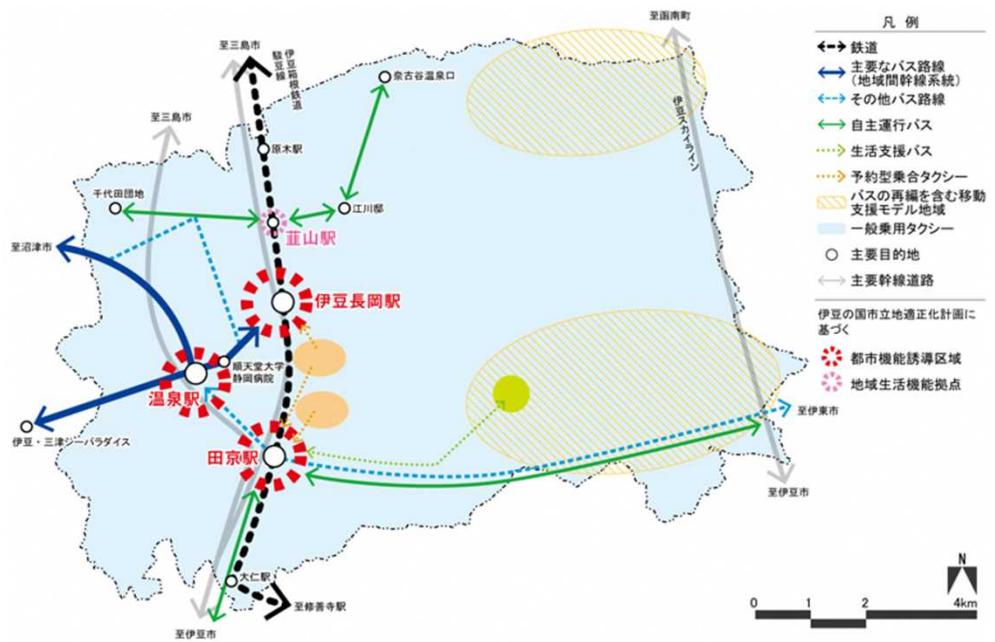
令和6年3月 伊豆の国市地域公共交通計画 策定  
(計画期間: 令和6年4月～令和11年3月)

# 1. 【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

2

## ●市の概要

- ・面積94.62km<sup>2</sup>、市域の1/3程度が平地部
- ・人口45,395人（令和8年1月1月時点）
- ・南北に鉄道が走り、東西に路線バスが運行している。



地域特性に応じた地域公共交通ネットワークの構築を目指す  
伊豆の国市地域公共交通計画（令和6年3月策定）

基本方針

豊かで快適な暮らしを人の  
つながりで支える公共交通

アンケート、ヒアリング調査等で公共交通の現状及び課題を以下の通り整理

## 本市の地域公共交通が抱える課題

### ●地域公共交通の維持が困難

- ・市内外への移動は自家用車が約7割と高く、公共交通利用はコロナ前から減少している。
- ・路線バスは多くが補助金に依存し、事業者も減収や運転手不足で減便を余儀なくされ、維持が困難となっている。

### ●地域の実情に合った公共交通の不足

- ・市が自主運行で維持する路線は統合・減便の影響で利用が伸びず、不採算・不便な状況が続いている。
- ・公共交通が届かない地域では商店や診療所が少なく、運転できなくなると移動困難者が増えることが懸念される。

### ●来訪者等による個人輸送ニーズへの対応不足

- ・市内には鉄道駅との間の送迎を行う旅館もあるが、予約に応じて少人数を都度送迎しており、非効率な運行を行っている。

目標

- 1 地域公共交通の利用者増大
- 2 交通ネットワークの最適化
- 3 市民主体による交通手段の構築
- 4 誰もが外出しやすい環境づくり
- 5 来訪者も利用しやすい交通手段の充実

## 主な取組内容

## ➤自主運行バス（亀石峠一修善寺駅線）の代替手段検討

目標2 及び 目標3

## ○概要

利用者の減少、運行経費の増加、さらにドライバーの労働時間等の見直しにより、路線維持が難しい当路線について、【公共ライドシェア】と【通学支援バス】への転換を検討している。

## ○実施状況

- 地域住民で構成された検討会を立ち上げ、2ヶ月に1回程度で会議開催（令和6年3月～令和7年3月、合計6回開催）
- 市長座談会「市長と語ろう」、区の総会で検討状況を地域住民へ周知
- 沿線の山間地域（大仁東地区）を対象にしたアンケート調査を実施
- 伊豆の国市地域公共交通会議で当該地域を「交通空白地」として協議、承認



▲市長座談会の様子

## ➤大仁東地区における公共ライドシェア実証運行（R7）

※「『交通空白』解消緊急対策事業」を活用

## ○概要

【公共ライドシェア】の導入を目指し、その効果や課題等を検証するため、無償による実証運行を行った。

## ○実施状況

- 浮橋、田原野、長者原、下畑の住民を対象に、約1ヶ月間実施（11月10日～12月19日）
- 区域内の自宅と区域外の駅、病院、商業施設との間を不定路線で定時に運行
- 交通空白地有償運送運転者講習を受講したドライバー16名を採用

運行回数	利用者数
49回 (うち乗合4回)	65人



▲利用者募集チラシ



▲出発式の様子

## 2. 【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

### 主な取組内容

#### ➤通学支援バスの実証運行（R7）

##### ○概要

児童・生徒が円滑な乗降が出来るかを確認するとともに、運行間隔の適正さを検証するための実証運行を行った。

##### ○実施状況

- 保護者、学校など関係各所と運行内容等を協議
- 令和8年1月23日 実証運行を実施
- 令和9年4月からの運行開始を目指し、準備中



▲実証運行の様子▲

目標4

#### ➤バスの乗り方教室の開催

##### ○概要

市民にバスを感じてもらい、バスを利用するきっかけを作ることを目的に講習会を開催している。

##### ○実施状況

令和5年	6校	374人
令和6年	3校	124人
令和7年	6校	374人（申込数）



◀▲実施の様子

#### ➤公共交通マップの配布

##### ○概要

市民が気軽に地域公共交通の情報に接することができるよう、市内の鉄道やバス等の情報を掲載した公共交通マップを配架している。

##### ○実施状況

高齢者、転入者等に配布

初版

平成31年 20,000部

増版

令和4年 7,500部

令和5年 4,000部

合計 31,500部

公共交通マップ▶



目標1

#### ➤レンタサイクル、シェアサイクルの充実

##### ○概要

個別輸送ニーズに対応するレンタサイクルやシェアサイクルの整備を促進することで、地域住民のみならず来訪者も利用しやすい移動手段の確保を図る。

目標5

##### ○実施状況

市内のサイクルポート設置数 23箇所  
(長岡温泉エリアマネジメント)

設置車両数 70台

サイクルポート▶



### 3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

計画目標・評価指標・目標値		達成状況						考察
		基準年度 (R4)	1年目 令和6年度 (R5実績)	2年目 令和7年度 (R6実績)	3年目 令和8年度 (R7実績)	4年目 令和9年度 (R8実績)	5年目 令和10年度 (R9実績)	
1. 地域公共交通の利用者の増大	市民1人当たりの公共交通利用回数 11.0回/人	9.6回/人	10.3回/人	8.9回/人				コロナ禍後、回復基調であったが、減便等により利用者数が減少している。特に民間路線バスの減少が著しいため、県やバス事業者との連携した取り組みを進めていく。
2. 交通ネットワークの最適化	公共交通の徒歩圏人口カバー率 79.6%	77.2%	76.9%	76.9%				令和5年度以降、バス停の新設や運行区域の拡大がなされたため、数值の増減なし。 交通空白地をカバーする公共交通が必要であり、山間地域の区域運行導入に向けた取組を進めている。
3. 市民主体による交通手段の構築	①市民主体による交通手段の延べ件数 5件	3件	3件	3件				大仁山間地域の公共交通再編の取組が始まり、対象地域と行政が協働して取組を進めている。定期的に住民との検討会や打ち合わせを実施し、住民が主体となった公共交通の導入を目指し、今後も地域住民との対話を継続する。
	②地域との協議回数 140回/5年	18回/年	15回/年	34回/年				
4. 誰もが外出しやすい環境づくり	①ユニバーサルデザイン(UD)車両導入率 70.0%	52%	53.2%	55.1%				事業者が車両の更新時期に合わせて導入を進めている。補助金等を活用するなど引き続き協力を要請する。 また福祉タクシー券については福祉部局と連携しながら、利用促進のための周知や広報を行う。
	②福祉タクシー券の利用率 75.0%	67.1%	67.6%	66.2%				
5. 来訪者も利用しやすい交通手段の充実	①観光客の公共交通利用率 30.0%	22%	22.7%	19.2%				依然として、自家用車による来訪が多い現状ではあるものの、交通結節点である駅などにおいて、市内公共交通の周知を行うなど、観光客が利用しやすい環境を整える。また、伊豆の国市自転車活用推進計画の取組を進めていくことで、サイクリルツーリズムの推進にもつなげていく。
	②レンタルサイクル・シェアサイクルの利用 者数 7,920人	7,197人	7,067人	13,472人				

# 4. 【Act】計画目標の達成に向けた今後の取組方針 の作成

## 目標値の動向及び見通し

評価指標		(基準年)					(策定期)		<推計値>			(目標年)	
		2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
指標1	利用者数増大				コロナ影響		コロナ5類へ			計画期間(5年間)			
指標2	公共交通の徒歩圏人口カバー率	12.9回	12.8回	8.6回	9.2回	9.6回	推計値 実績値	9.8回 10.3回	10.1回 8.9回	10.3回 8.9回	10.5回 8.9回	10.8回 8.9回	11.0回
指標3	公共交通手段の導入件数	-	-	-	-	77.2%	推計値 実績値	77.2% 76.9%	77.2% 76.9%	77.2% 76.9%	78.8% 76.9%	79.6% 76.9%	79.6%
指標4	②地域との協議回数(累計)	2件	2件	3件	3件	3件	推計値 実績値	3件 3件	3件 3件	3件 3件	4件 3件	5件 3件	5件
指標5	①ユニバーサルデザインの車両導入率	37.2%	42.7%	44.7%	47.5%	52.0%	推計値 実績値	55.0% 53.2%	58.0% 55.1%	61.0% 60.0%	64.0% 60.0%	67.0% 60.0%	70.0%
交通来訪手段者の向充け実	②タクシー券の利用率	39.3%	37.2%	13.7%	15.3%	67.1%	推計値 実績値	68.4% 67.6%	69.7% 66.2%	71.0% 66.2%	72.3% 66.2%	73.6% 66.2%	75.0%
指標5	①観光客の公共交通利用率	23.3%	23.8%	11.9%	16.3%	22.0%	推計値 実績値	23.3% 22.7%	24.6% 19.2%	26.0% 20.0%	27.3% 20.0%	28.6% 20.0%	30.0%
	②レンタサイクル・シェアサイクルの利用者数	-	-	-	-	7,197人	推計値 実績値	7,317人 7,067人	7,438人 13,472人	7,558人 7,000人	7,679人 7,000人	7,799人 7,000人	7,920人 7,000人

## 今後の取組方針

### 【事業者との協力による利用促進】

- ◆ バスの乗り方教室の開催継続
- ◆ 公共交通マップの改訂
- ◆ 免許返納者に対するタクシー・バス・鉄道利用券の交付
- ◆ ホームページや広報誌による市民向け情報発信の充実

### 【市内全域の交通手段の最適化】

- ◆ 地域、学校関係者との意見交換を踏まえた路線バス等の運行内容の見直し
- ◆ 市民生活に必要な路線の維持を目的とした事業者への補助継続
- ◆ 区域運行を主とした新たな輸送手段の確立

### 【地域との対話を通じて

#### 実情に応じた交通手段を検討】

- ◆ 交通空白地における座談会等の開催
- ◆ 地域交通にかかわる地域主体の体制構築、及び活動支援
- ◆ 地域資源の調査及び活用、先進事例の視察・研究

### 【移動制約者※に対する支援の拡充】

- ◆ 遠距離通学者に対する支援(定期券、燃料費の補助、通学支援バスの導入)
- ◆ 高齢者、障がい者に対するタクシー・バス・鉄道利用券の交付

※公共交通が不便な地域に居住する高齢者、子ども、障がい者等

### 【多様化する移動ニーズに対する 個別移動手段の整備】

- ◆ 公共交通マップを活用した移動手段の紹介
- ◆ サイクルポート設置に対する支援
- ◆ 旅館等による単独送迎から連携による周遊送迎の需要の掘り起こし

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回			
前々回			

※直近2年間で二次評価を受けたことはありません

## 【計画の進捗管理】

### ●実施体制

本計画の推進に当たっては、市や交通事業者、関係機関などが密接に連携し、それぞれの実施主体が着実に取り組むこととします。取組の進捗や実績は、市が事務局として取りまとめ、「伊豆の国市地域公共交通会議」の中で報告し、評価や改善に向けた協議を図る体制を整え、委員の意見を反映しながら目標の達成に向けて取り組んでいきます。

### ●計画及び目標の評価スケジュール

計画の推進に当たっては、計画策定（Plan）→事業の実施（Do）→評価（Check）改善（Act）→計画反映（Plan）というPDCAサイクルを毎年行います。計画期間中は以下のような評価スケジュールのもと事業を進めます。

<年間単位の進捗管理、評価スケジュール>



<計画期間における進捗管理、評価スケジュール>

	令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
計画 (Plan)	P		P		P		P		P	
事業の 実施 (Do)							D			
評価 (Check)	C		C		C		C		C	
改善 (Act)	A		A		A		A		A	

事業実施

事業の確認・評価

事業の改善

## 【伊豆の国市地域公共交通会議の開催状況（令和5年度、令和6年度、令和7年度）】

令和5年度	第1回（8月8日）	主な議題：伊豆の国市地域公共交通計画について（構成、作業工程、1～2章ほか）
	第2回（11月10日）	主な議題：伊豆の国市地域公共交通計画について（策定作業の進捗ほか）
	第3回（1月19日）	主な議題：伊豆の国市地域公共交通計画について（事務局案承認、策定）
令和6年度	第1回（8月8日）	主な議題：伊豆の国市地域公共交通基本計画の取組結果について
	第2回（11月10日）	主な議題：令和6年度取組み状況及び令和7年度の事業計画案について
令和7年度	第1回（8月8日）	主な議題：伊豆の国市地域公共交通計画の進捗について
	第2回（1月29日）	主な議題：伊豆の国市地域公共交通計画の評価について

**<地域公共交通計画の評価等結果の様式>**

伊豆の国市地域公共交通計画の評価等結果（令和6年4月～7年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
公共交通の利用者増大 (市民1人当たりの公共交通利用回数：11.0回/人)	利用しやすいバス停留所等の環境づくり・バスロケーションシステムの利用促進・バスの乗り方教室の開催・市民向け情報発信の充実・運転免許証自主返納の促進	公共交通の延べ利用者数と住民基本台帳人口から算出	R6年度：8.9回/人 (参考)R5年度：10.3回/人 コロナ禍後、回復基調であったが、減便等により利用者数が減少している。	市町を跨ぐ民間路線バスの減少が大きい。県やバス事業者との連携した取り組みが必要である。	
交通ネットワークの最適化 (公共交通の徒歩圏人口カバー率：79.6%)	自主運行バスの運行内容の見直し・最適な輸送手段の検討及び導入・運転手の確保に向けた取組の推進・連携によるネットワークの強化	鉄道駅から800m、バス停から300mを徒歩圏内として算出	R6年度：76.9% (参考)R5年度：76.9% 令和6年度にバス停の新設や運行区域の拡大がなかったため、数値の増減なし。	交通空白地をカバーする公共交通が必要である。山間地域の区域運行導入に向けた取組を進めている。	
市民主体による交通手段の構築 (①市民主体による交通手段の導入件数：5件、②地域との協議回数（累計）：140回)	地域との交通手段の検討会の開催・地域主体の組織体制の構築・互助や共助による交通手段の導入支援・地域資源の調査、先進事例の研究	①地域主体で市と協働して導入した交通手段の延べ件数で算出 ②地域との座談会や意見交換会等の累積回数で算出	R6年度：①3件 ②34回 (参考)R5年度：①3件 ②15回 ①令和6年度増減なし。 ②大仁山間地域の公共交通再編の取組が始まり、地域との協働による取組を進めている。	定期的に住民との検討会や打ち合わせを実施し、住民が主体となった公共交通の導入を目指している。今後も地域住民との対話を継続する。	
誰もが外出しやすい環境づくり (①ユニバーサルデザイン車両の導入数：70.0%、②福祉タクシー券の利用率：75.0%)	小中学生に対する通学支援・高齢者等に対する福祉タクシー等利用券の交付・バス停留所の安全性と快適性の向上・バリアフリー化の取組充実	①市内で営業する交通事業者が導入しているUD車両数から算出 ②タクシー券の交付枚数から算出	R6年度：①55.1% ②66.2% (参考)R5年度：①53.2% ②67.6% ①事業者が計画的に車両を更新しているため、微増となっている。 ②交付対象者は増えているが、利用率は、微減となっている。	①については、事業者が車両の更新時期に合わせて導入を進めている。②については、福祉部局と連携しながら、利用促進のための周知や広報の取組を行っていく。	
来訪者も利用しやすい交通手段の充実 (①観光客の公共交通利用率：30.0%、②レンタルサイクル等の利用者数：7,920人)	レンタルサイクル、シェアサイクルの充実・個別輸送サービスの充実・Maas等新たな技術の導入検討	①「静岡県における観光の流動実態と満足度調査」から算出 ②レンタルサイクル等の利用者の合計を算出	R6年度：①19.2% ②13,472人 (参考)R5年度：①22.7% ②7,067人 ①依然として、自家用車による来訪が多い現状である。 ②サイクルポートを新たに設置したことにより、利用者も増加した。	市内において観光客が市内を周遊する仕組みやその周知が不十分である。観光部局と連携し、観光客が公共交通とタクシー・レンタルサイクルなどの個別輸送手段を円滑に乗り継げる環境を整備するとともに、サイクルツーリズムの周知・促進に向けた取組を進めていく。	

(記載に当たっての留意事項)

- ・ 本様式中、表題の「（〇年〇月～〇年〇月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「ー」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料とし